

平成 26 年度 香川大学

## 瀬戸内圏研究センター学術講演会



[本城先生]

瀬戸内圏研究センター学術講演会を開催したいと思います。私は香川大学の瀬戸内圏研究センターのゼネラルマネージャーの本城凡夫でございます。お忙しいところご足労願いまして、ありがとうございます。まず、最初にセンター長であります多田邦尚からご挨拶を申し上げます。

[多田先生]

皆様こんにちは。香川大学瀬戸内圏研究センターのセンター長をしております農学部が多田です。今日はお忙しい中、私達のセンターの学術講演会に参加いただきまして、ありがとうございます。

私達のセンターは地域の問題・課題を掘り起こして、それらを研究し地域の発展に寄与することを主な任務として活動しています。今回開催する学術講演会は当センターのプロジェクト研究のステップアップをはかると同時に、広く一般の方々に瀬戸内圏研究の魅力を紹介する場として企画しております。

瀬戸内圏研究センターは、現在 3 つのグループで研究を進めています。

- ・まず一つ目は私、多田をリーダーとする海グループです。海グループでは干潟を含めた瀬戸内圏の浅海域、沿岸海域の生態系や環境を研究しております。
- ・二つ目は経済学部の稲田教授をリーダーとする文化・観光・歴史グループです。このグループでは瀬戸内圏の地域・文化の発展と観光資源の創造について研究をしています。
- ・三つ目は原特任教授をリーダーとする遠隔医療グループです。このグループでは瀬戸内圏における生涯健康カルテネットワークの構想を進めています。
- ・これに加えて、今年度から工学部の角道教授をリーダーとする「水を守る」というテーマを持ったグループが立ち上がりました。

今後、私達瀬戸内圏研究センターはこの角道先生のグループを含めて、4 つのグループで活動していくことになります。

今年度の学術講演会はプログラムを見ていただければ分かりますように、まず各グループのリーダーがこれまでの研究活動の推移についてお話をさせていただいて、その後、招

待講演者の方々にお話しをしていただく形をとっています。各リーダーから地域貢献の実例が紹介されると思いますので、私からは簡単に各グループの紹介をさせていただきたいと思ひます。

海グループでは瀬戸内海における栄養塩類や生物生産の変化を調査して、特に窒素の減少によってノリの色落ちが引き起こされたことを指摘し、香川県知事に説明しました。その後、自治体と一体型の組織体制を作ってノリ養殖のノリ網をスカートで囲んで肥料を撒くといったノリスカートを用いた施肥実験というものを行って、養殖業者からも一定の評価を得ました。今年度からはさらに流れの速い湾口部に、そのノリ網を移してノリスカートの効果を試験する予定です。また、庵治町にあるマリンステーションを拠点として、志度湾のアサリの稚貝の収集や貝リングルを用いたカキ養殖の安全・安心管理の研究を行っております。昨日もNHKの「ゆうどき香川」で、この貝リングルが紹介されたところです。同じ海グループの工学部の末永先生は高い繁殖力を有する機能性藻場礁、藻場礁というのは藻場の付着基盤のことですが、藻場礁や海水中に渦を発生させる漁礁を開発しています。この漁礁は既に大阪湾で実用化に至っております。

文化・観光・歴史グループでは離島問題について、「大きな外部投資の開発ではなくて、島の生活を尊重して、島を興す人達と島民が根気よく交流しながら、経済を発展させていくことが大切である」という提言をまとめました。また、瀬戸内国際芸術祭や四国遍路の世界遺産に向けた学術調査も行っています。これまでにこの文化・観光・歴史グループでは4冊の冊子を発行しております。「瀬戸内圏歴史文化の発展と観光資源の創造」、それから「島へ行こうよ」、「瀬戸内海観光と国際芸術祭」、さらに「四国遍路道指南<sup>みちしるべ</sup>」などの4冊を刊行し、全てにおいて非常に高い評価を受けています。また、ごく最近ではNHKの歴史秘話ヒストリア、四国遍路に稲田先生が出演されるなど、メディアからも注目されているところです。

遠隔医療グループでは、原先生の広い人的ネットワークとたゆまぬ行動力が実り、香川県が国から医療福祉総合特区の認定を受けました。この事業は香川県や香川県医師会、看護協会などが一体になった活動です。現在、これらの活動の成果は香川県のみならず、東日本大震災の被災地や開発途上国に向けて展開中です。ですから、香川県から日本、さらに世界に大きく羽ばたいて行こうとしているところであります。

このように瀬戸内圏研究センターの研究あるいは活動というのは大学の中期目標に沿って順調に進捗しています。本日は招待講演者のお話と私達の研究の接点を理解していただきますとともに、今日ご参加の皆様から活発なご議論をよろしくお願いいたします。

簡単ですけれどもセンター長のご挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。